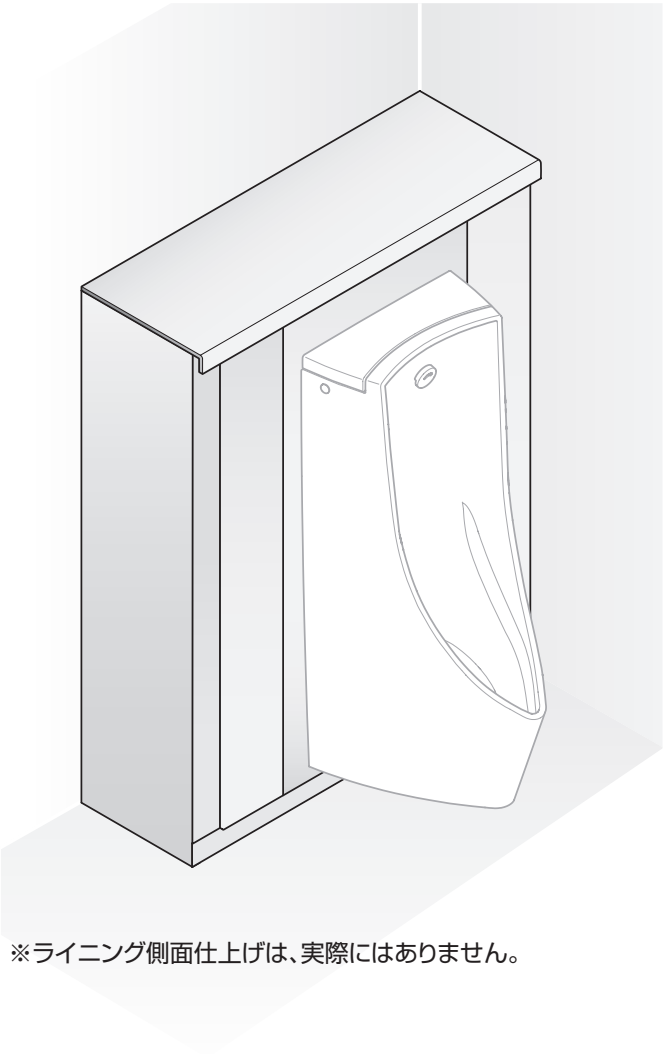
TOTO

施工説明書

自動洗浄小便器（UFS900系）用 点検口付ライニング

小便器用 UAUN2系

製品の機能が十分発揮できるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。本書に記載の寸法の単位はmmです。



※ライニング側面仕上げは、実際にはありません。

情報編 3

1. 安全上のご注意 4
2. 取り付け前のご注意 5
3. 部品の確認 8

手順編 9

工事店様へ

□取扱説明書の最終ページの保証書に、必要事項を記入のうえ、必ずお客様にお渡ししてください。
お渡しできない場合は、目立つ場所に置いてください。

情報編

1. 安全上のご注意 ▶4

2. 取り付け前のご注意 ▶5

1 商品の構成 5

2 全体寸法 6

3 必要工具・部材 7

4 取付下地の確認、固定材の準備 7

3. 部品の確認 ▶8

1.安全上のご注意

安全のために必ずお守りください。

お取り付け前にこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けてください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容となりますので、必ずお守りください。

●表示と意味はつぎのようになっています。

警告	誤った取り扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
注意	誤った取り扱いをすると、「人が傷害を負う可能性および物的損害※の発生が想定される」内容です。

●お守りいただく内容を絵表示で区分し、説明しています。

	してはいけない「禁止」の内容です。
	必ず実行していただく「強制」の内容です。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

警告

水場使用禁止

浴室など水がかかったり湿気の多い場所には設置しない
火災や感電の原因となります。
商品本体・ねじ類の腐食により、落下してけがやときに死亡の原因となります。

分解禁止

この説明書に記載された項目以外は分解・改造しない
破損してやけど・けがをしたり、水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

禁止

屋外および傾斜のあるような壁面、振動の激しい場所に取り付けない
取り付けが不安定になり、落下してけがやときに死亡の原因となります。

必ず守る

取り付け部には所定の下地を設ける
固定強度不足のため、けがや壁の破損の原因になります。

工事完了後、商品の傾きやがたつきがないか確認する
商品が落下したり、外れたりしてけがやときに死亡の原因となります。
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

商品の取り付け・加工は、本説明書に記載された方法・注意事項を厳守する
商品が破損・落下し、けがのおそれがあります。
水漏れにより、感電、または、建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

壁への設置は下地に合った固定を確実に行う
固定強度不足のためけがをするおそれがあります。

樹脂プラグなどの下穴は指定径のドリルで所定の深さであけ、ダストポンプを使用して、必ず穴の中の切粉を除去する
固定強度不足のため、けがをするおそれがあります。

注意

禁止

カウンターや各器具の上に乗ったり、重いものを載せない
故障やけがの原因になります。

商品に強い力や衝撃を与えない
商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

必ず守る

壁への固定が完了するまで、十分注意し、各部の固定がゆるんでいないことを確認する
倒れやすく、使用中に落下してけがの原因になります。

1.5mを超えるフレーム・甲板の持ち運びや取り付けは必ず2人以上で行う
腰を痛めたり、器具を落として破損する可能性があります。

作業時は手袋、防じんマスクなど適切な防護具を使用する
予期せずけがをするおそれがあります。

商品の壁への固定が完了するまで、もたれたりものを載せたりしないよう十分注意する
商品が倒れたり落下してけがの原因となります。

カットした面は滑らかに仕上げる
滑らかに仕上げないとお客様の手が触れ、けがをする原因となります。

水準器を用いて水平に設置する
収納物が落下してけがの原因となります。

設置工事に使用する部材は必ず付属部品および指定部品を使用する
取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

2.取り付け前のご注意

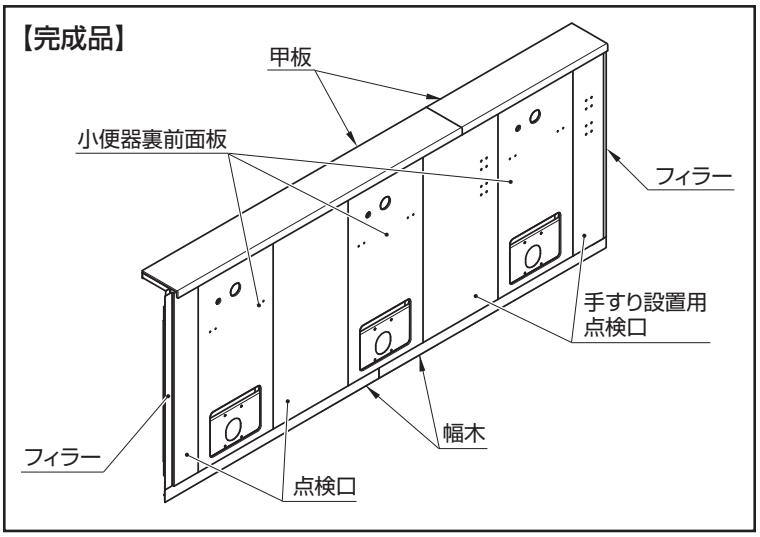
取り付け前の確認

❶ 本商品および、本商品に取り付ける器具の商品図・事前施工情報を必ず確認し、取付位置や取付下地など施工条件を事前に確認にする。
※特に、床・壁の傾き、倒れがないことや、配管の立ち上げ位置を確認してください。

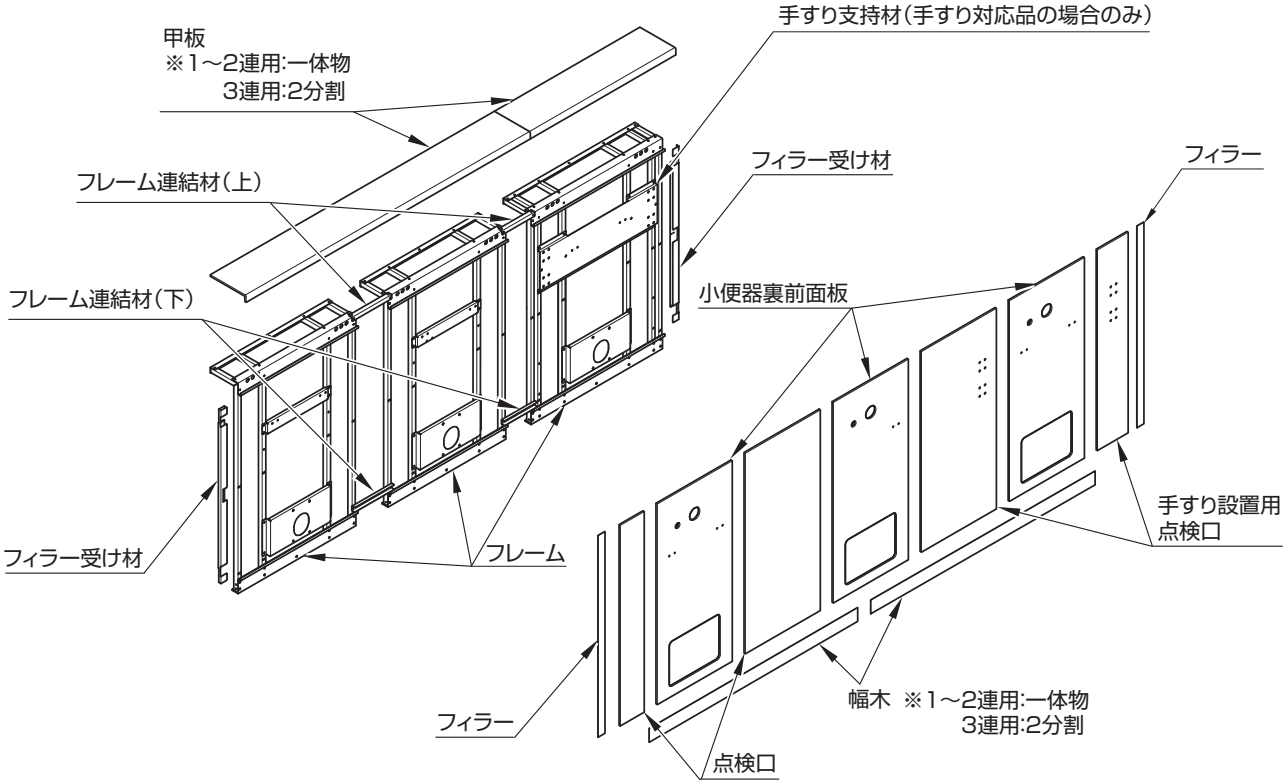
❷ 不具合があった場合は責任者の方と調整し、不具合を解消後に取り付ける。

❸ 本商品に取り付ける各器具に同梱の施工説明書も参照。

1 商品の構成



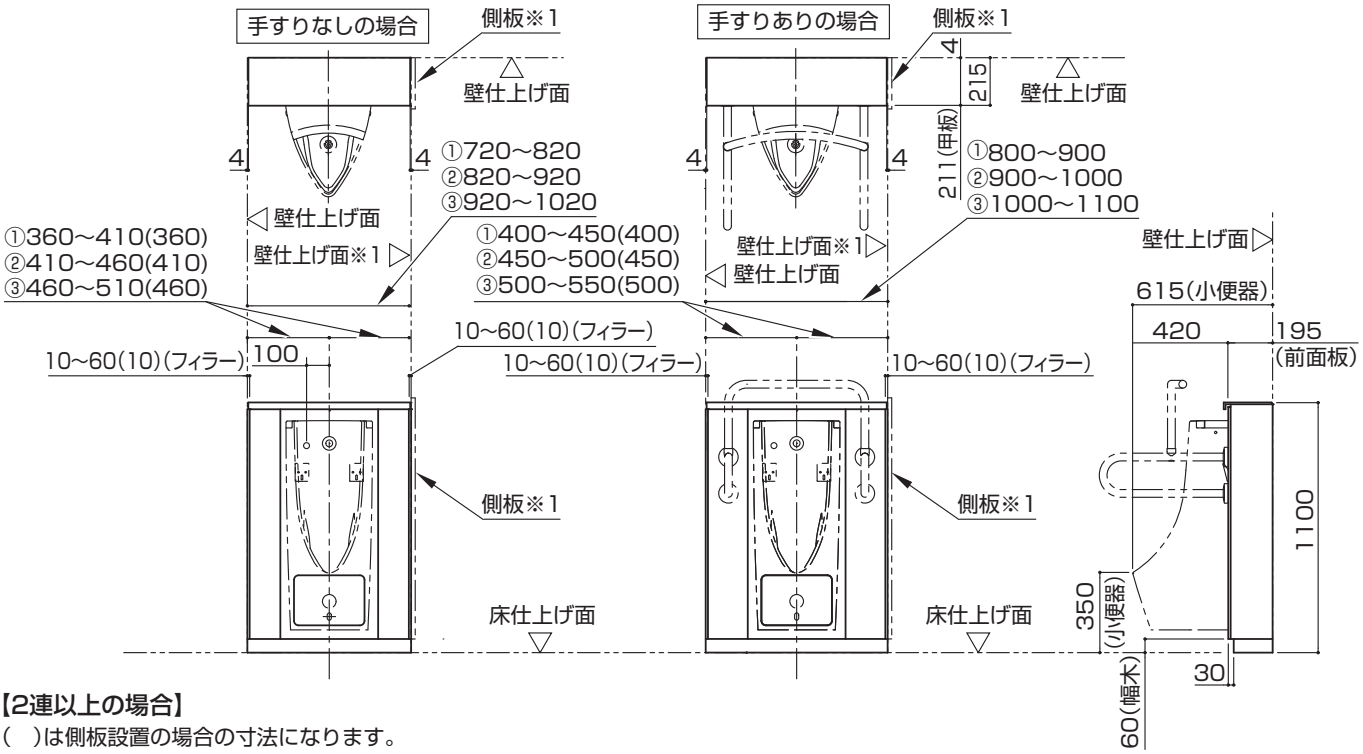
本施工説明書では3連・手すり設置加工あり（右端）の場合の例を記載しています。
別仕様の場合も本施工説明書に準じて施工してください。



2 全体寸法

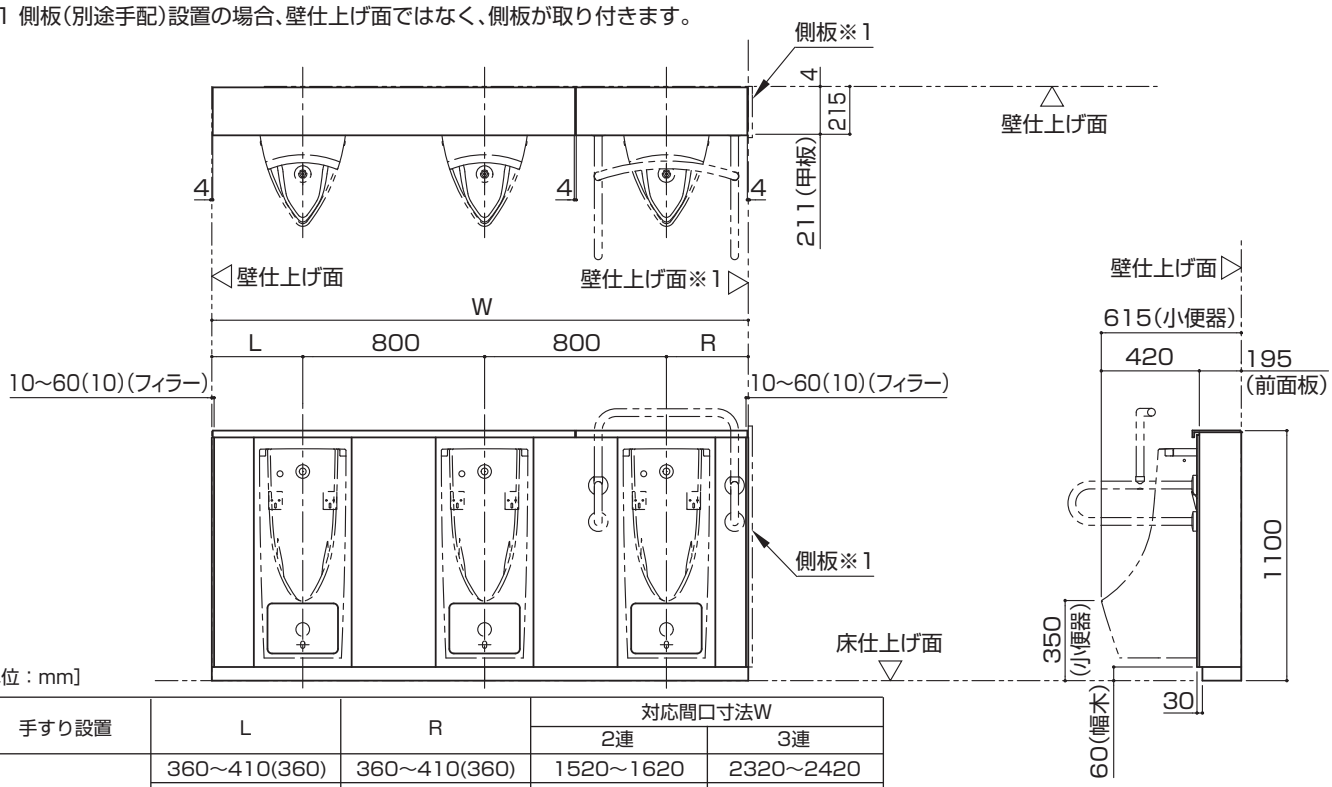
【1連の場合】

(　)は側板設置の場合の寸法になります。
※1 側板(別途手配)設置の場合、壁仕上げ面ではなく、側板が取り付きます。



【2連以上の場合】

(　)は側板設置の場合の寸法になります。
下図は3連の場合の例を表します。
※1 側板(別途手配)設置の場合、壁仕上げ面ではなく、側板が取り付きます。

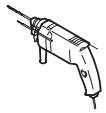


[単位：mm]

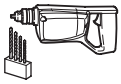
手すり設置	L	R	対応間口寸法W	
			2連	3連
手すりなし	360～410(360)	360～410(360)	1520～1620	2320～2420
	410～460(410)	410～460(410)	1620～1720	2420～2520
	460～510(460)	460～510(460)	1720～1820	2520～2620
手すりあり(左端)	400～450(400)	360～410(360)	1560～1660	2360～2460
	450～500(450)	410～460(410)	1660～1760	2460～2560
	500～550(500)	460～510(460)	1760～1860	2560～2660
手すりあり(右端)	360～410(360)	400～450(400)	1560～1660	2360～2460
	410～460(410)	450～500(450)	1660～1760	2460～2560
	460～510(460)	500～550(500)	1760～1860	2560～2660

3 必要工具・部材

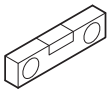
※一般水道工事に使う工具以外に、下記の工具･部材を用意してください。


振動ドリル

コンクリート用ドリル
φ8（フレーム固定用）
φ6（表面材下穴用）


電動ドリル
鉄工用　キリセット

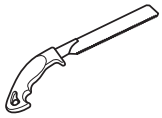
ダストポンプ

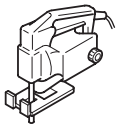

水準器

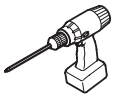
プラスドライバー

ソケットレンチ
（10mm）

丸のこ

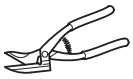

硬質プラスチック用
のこぎり


ジグソー

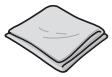

電動ドライバー
ビットサイズ:#2、#3
250mm以上のロングビット

レーザー墨出器

金やすり


金切りばさみ
切断能力…ステンレンス板0.8mm

脱脂用アルコール


ウェス

養生テープ

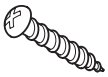
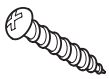
配管･継手類　※商品図･配管図面を参照し、必要な配管･継手類を準備ください。

シリコーン系シール剤

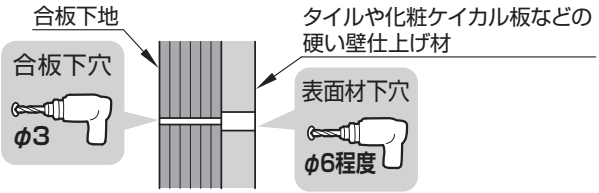
4 取付下地の確認、固定材の準備

取付下地などに不具合があった場合は責任者の方と調整し、解消後に取り付けてください。

■壁・床固定

	下地	固定部材	
床・壁	コンクリート （仕上げ材の厚み10mm以内）	樹脂プラグ （下穴φ8 深さ:55mm） タッピンねじφ5×50 	フレームに同梱
壁	鋼製下地＋耐水合板 （t12以上）	タッピンねじφ5×50 	フレームに同梱

※上記以外の下地の場合、別途現場で固定部材を用意してください。



ポイント

【表面が硬い仕上げ材の場合】

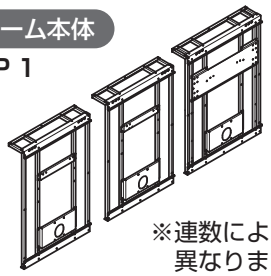
仕上げ材だけに固定ねじの径よりも大きい下穴（φ6程度）をあける

ねじ固定時に仕上げ材が破損するのを防ぎます。

3.部品の確認

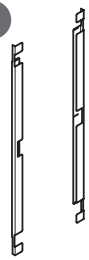
フレーム

フレーム本体
STEP 1



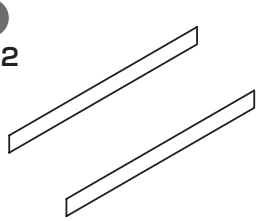
※連数によって数が異なります。

フィラー受け材
STEP 3,4



※フレーム本体にテープ止め

幅木
STEP 2



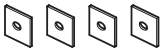
※連数によって数が異なります。

フレーム付属部品 ★:付属部品は、数量×器具の連数分の数量となります。

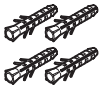
フレーム壁床固定セット★ STEP 1

【壁・床固定用】

トラスタッピンねじ
φ5×50(4本)



角座金
[大形角]
(4個)



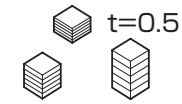
樹脂プラグ
(4本)

【調整用】

ねじ受け材
(8個)

トラスタッピンねじ
φ5×30(8本)

ライナーセット★
STEP 5

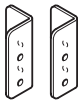


各5枚

フィラー受け材固定用
STEP 4

バインドタッピンねじ
φ4×12(6本)

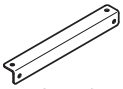
幅木受け材
STEP 1



幅木受け材(2個)

バインドタッピンねじ
φ4×12(4本)

連結部材セット
STEP 1



フレーム
連結材(上)

1連…なし
2連…1セット
3連…2セット

フレーム
連結材(下)

バインド
タッピンねじ
φ4×12(8本)

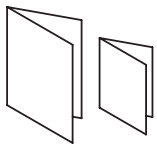
ねじセット
STEP 6
【ハンガー固定用】

タッピンねじ
φ6×30(4本)

【ソケット固定用】

トラスタッピンねじ
φ5×30(4本)

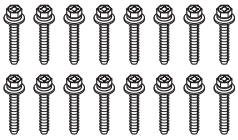
施工説明書／取扱説明書



両面テープ
STEP 4

樹脂ブッシュ★
STEP 5

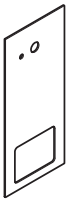
手すり固定ねじセット
STEP 8
※手すりがある場合



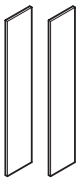
バネ座金一体
アプセット小ねじ
M6×30(16本)

前面板

前面板 STEP 5



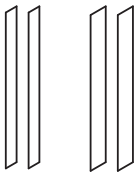
前面板
(1×連数枚)



点検口(端部)
(2枚)

点検口(器具間)
(連数−1枚)

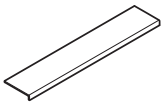
フィラー STEP 4



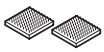
幅:40mm,65mm
(各2枚)

甲板

甲板 STEP 7



甲板本体
※連数によって数が異なります。

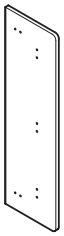


面ファスナー
(透明と黒で1セット)

1連……6セット
2連……12セット
3連……18セット

側板(別途手配品 品番:UTR140)

側板 STEP 3



側板本体

側板中央固定材

トラスタッピンねじ
φ4×20(1本)

バインドタッピンねじ
φ4×12(7本)

バインドタッピンねじ
φ4×8(3本)

側板上部固定材

側板下部固定材
STEP1にて
あらかじめ取り付け

L形幅木

角座金M6

皿タッピンねじ
φ4×8(2本)

手順編

STEP1.フレーム	▶10
STEP2.幅木	▶15
STEP3.側板（側板がある場合）	▶16
STEP4.フィラー受け材・フィラー	▶17
STEP5.前面板	▶18
STEP6.小便器	▶19
STEP7.甲板	▶20
STEP8.手すり（手すりがある場合）	▶22
STEP9.確認・仕上げ	▶22

小便器に同梱の施工説明書を参照して配管工事･電気工事･給水金具の取り付けまでを行なって行ってください。
※小便器同梱の施工説明書の「3.給水金具取り付け」まで

マーク表示について

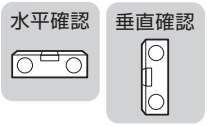
電動ドライバー使用禁止です。
手締めしてください。

下穴をあけてください。
（例:φ3の場合）

カットしてください。

脱脂用アルコールで
脱脂してください。

けがきをしてください。



水準器で水平･垂直確認
してください。

STEP1.フレーム

1 器具心・固定位置の墨出し
▶P.10

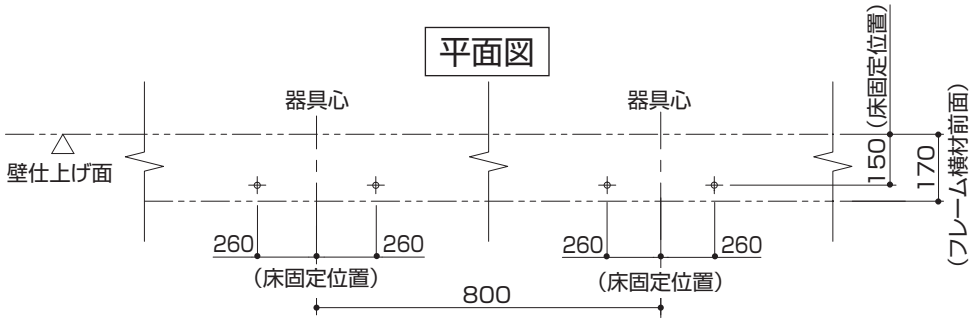
2 フレーム固定の準備
▶P.11

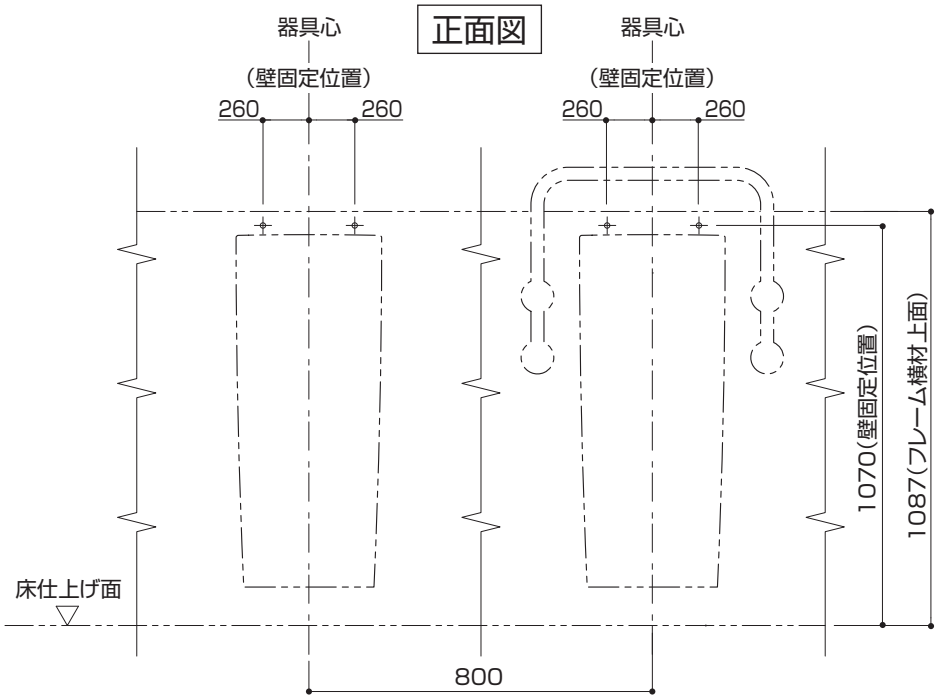
3 フレーム設置の準備
▶P.11

4 フレームの仮固定・本固定
▶P.13

1 器具心・固定位置の墨出し

※下図を参考にフレームの器具心位置、固定位置の墨出しをします。
フレームの固定位置は1連につき壁・床2カ所ずつになります。
（手すり設置加工あり／なしでも床固定位置は同じです。）

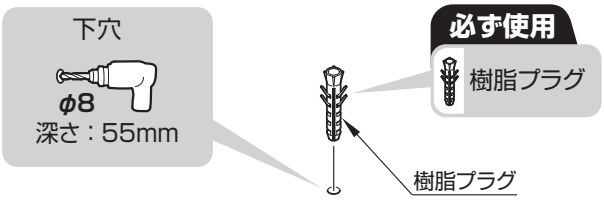




2 フレーム固定の準備

床固定の場合

各墨出し位置に取り付ける



⚠ 注意

必ず守る

指定径のドリルで所定の深さの下穴をあけ、ダストポンプを使用して、必ず穴の中の切粉を除去する

所定強度を発揮できません。

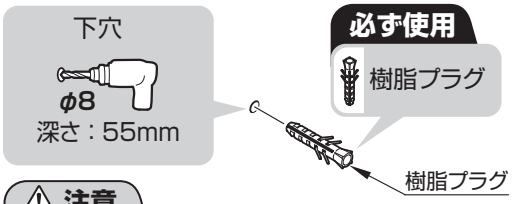
壁固定の場合

各墨出し位置に取り付ける

下地によって、使用する固定部材が異なりますので、各部材の固定ねじに応じた固定部材を使用する。

各固定部材について
▶右記参照

【コンクリート下地固定の場合】



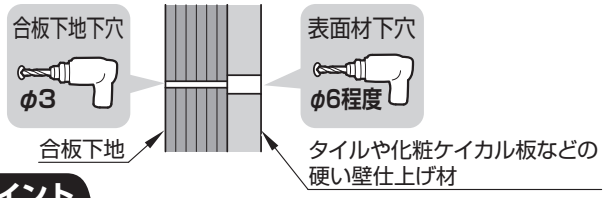
⚠ 注意

必ず守る

指定径のドリルで所定の深さの下穴をあけ、ダストポンプを使用して、必ず穴の中の切粉を除去する

所定強度を発揮できません。

【合板下地固定の場合】



ポイント

【表面が硬い仕上げ材の場合】

仕上げ材だけに固定ねじの径よりも大きい下穴をあける

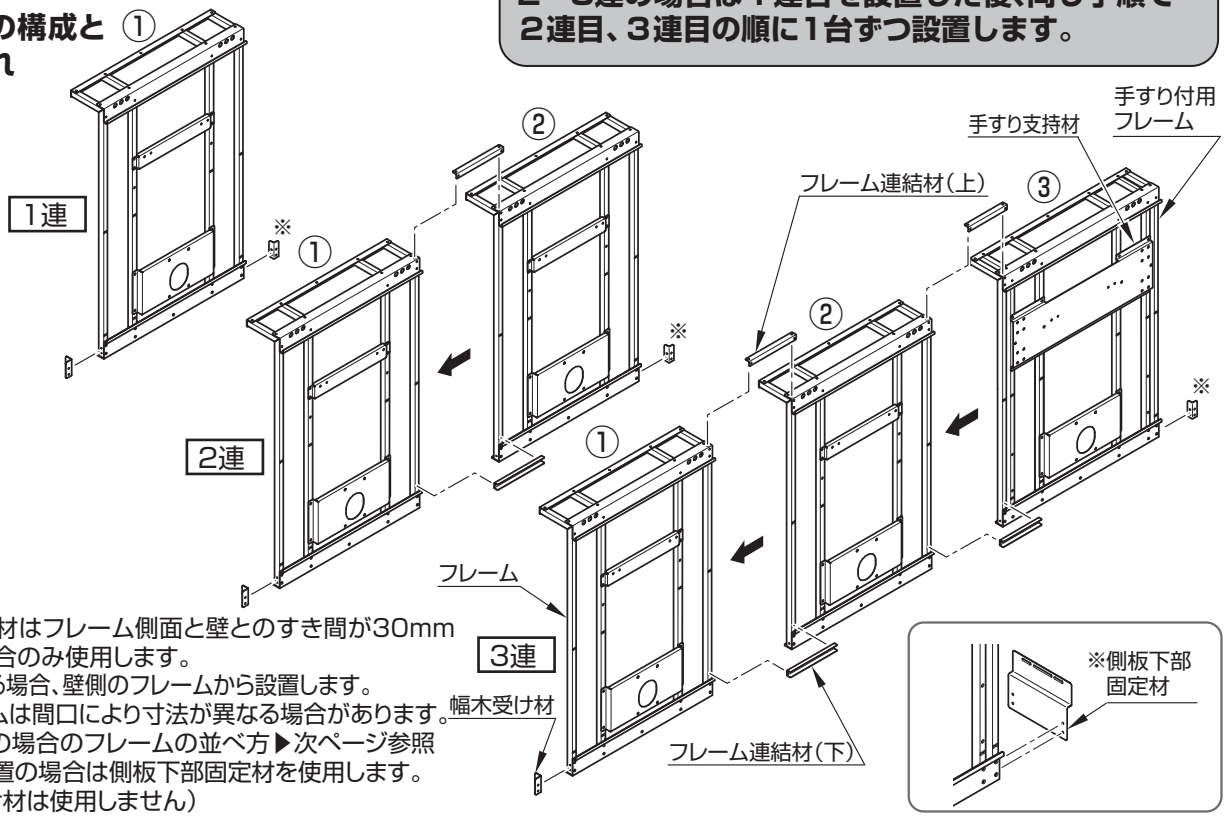
ねじ固定時に仕上げ材が破損するのを防ぎます。

3 フレーム設置の準備

ポイント

2～3連の場合は１連目を設置した後、同じ手順で２連目、３連目の順に1台ずつ設置します。

フレームの構成と施工の流れ

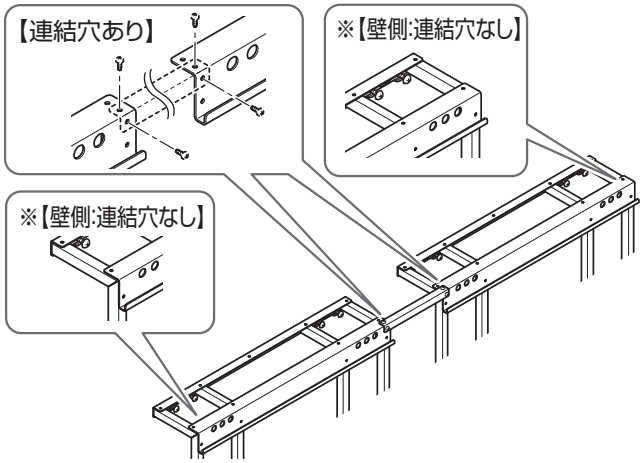


※幅木受け材はフレーム側面と壁とのすき間が30mm以上の場合のみ使用します。
※側板がある場合、壁側のフレームから設置します。
※各フレームは間口により寸法が異なる場合があります。2連･3連の場合のフレームの並べ方▶次ページ参照
※側板を設置の場合は側板下部固定材を使用します。（幅木受け材は使用しません）

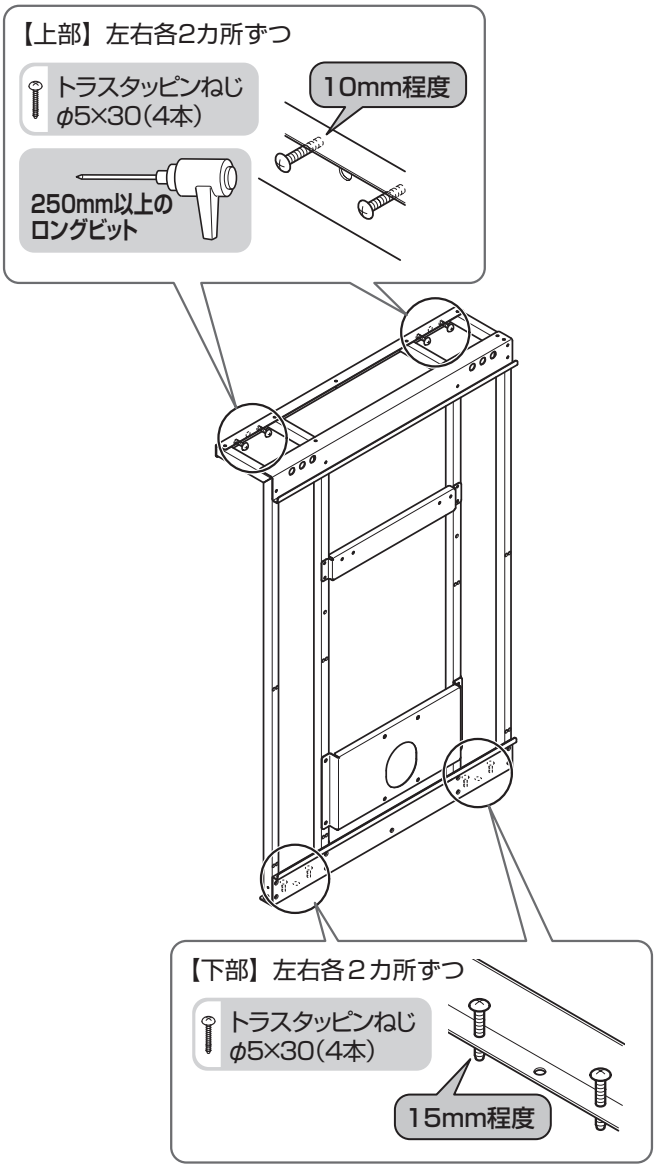
2連・3連の場合のフレームの並べ方

【手すり付のフレーム位置】
手すり支持材の付いたフレームを使用します。

【手すりなしのフレーム位置】
フレーム連結材（上）の固定用穴がとなり合うよう設置してください。
穴があいていない側は壁側となります。
（※配置の関係で壁側も穴付きとなる場合があります。）



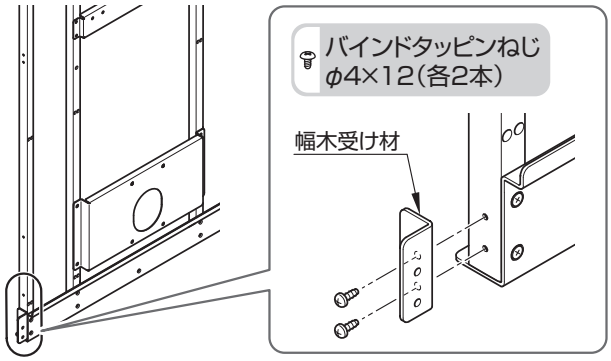
❶ 調整用ねじの取り付け



フレーム側面と壁とのすき間が30mm以上場合

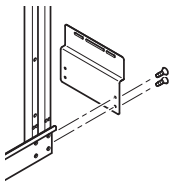
❷ 幅木受け材を取り付ける

※フレーム側面と壁とのすき間が30mm未満の場合は、
取り付け不要です。
※左右端部に取り付けます。



側板がある場合

❸ 側板が取り付く側に、側板下部固定材を取り付ける



2連目・3連目に使用する場合

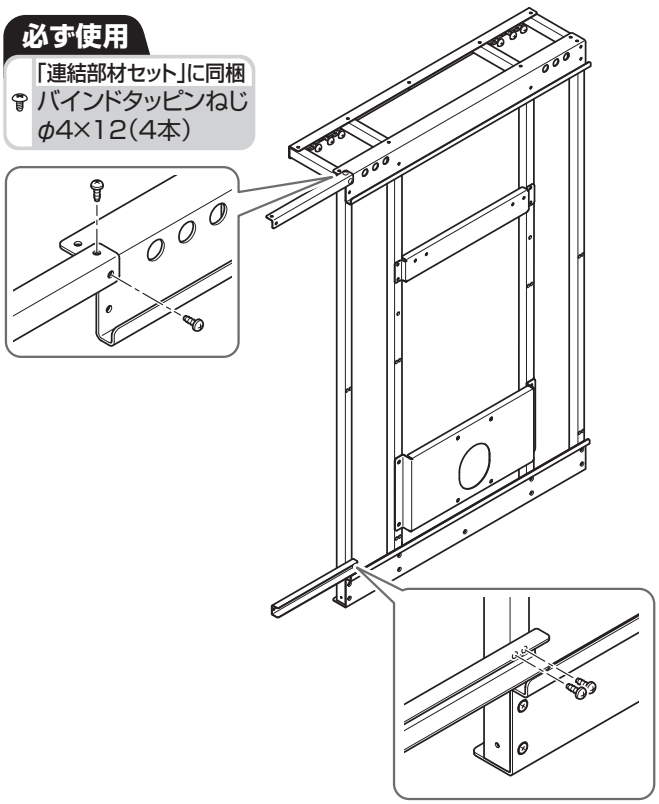
❹ フレームに連結材（上）（下）を取り付ける

ポイント

２連目・３連目のフレームにはあらかじめ、連結材を取り付ける

必ず使用

「連結部材セット」に同梱
バインドタッピンねじ
φ4×12（4本）

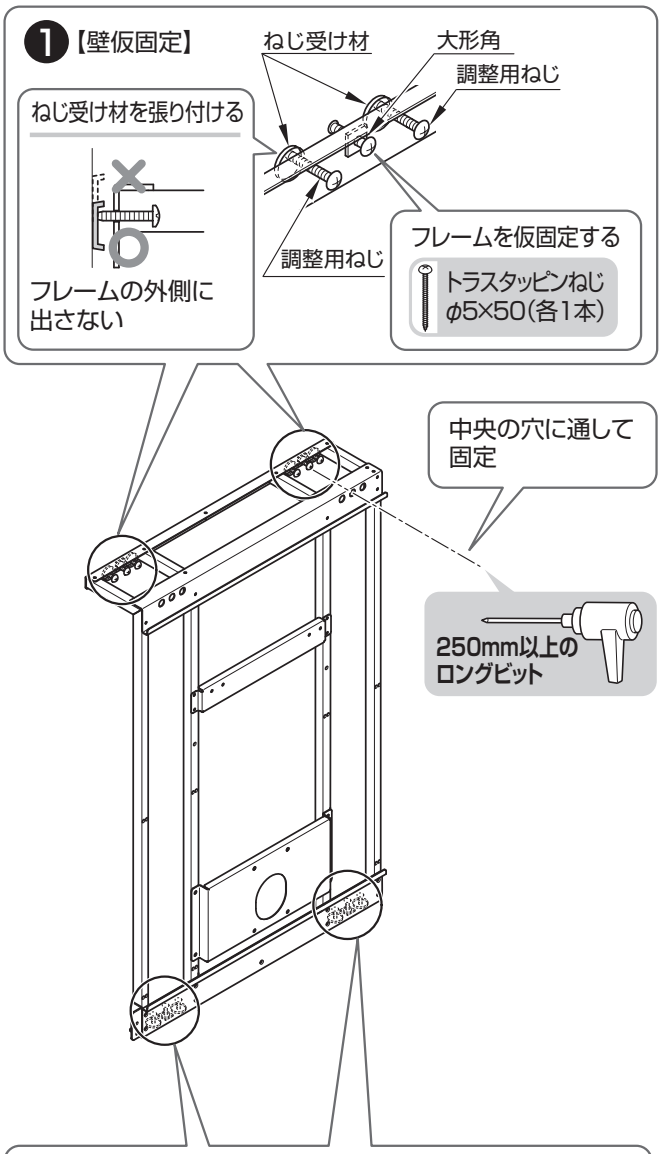


4 フレームの仮固定・本固定

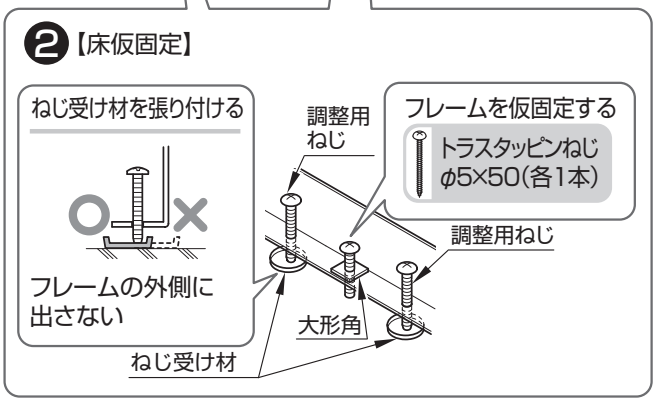
ポイント

ねじ受け材は両面テープで壁に仮止めしておくと取り付けやすくなります。

❶【壁仮固定】

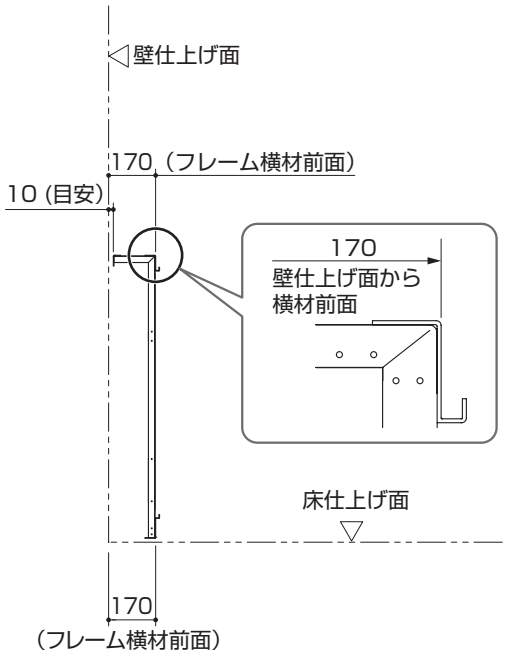


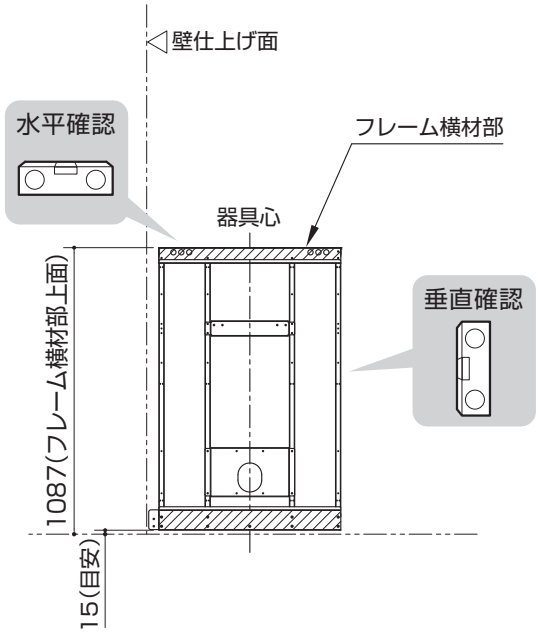
❷【床仮固定】



❸ フレームの位置調整

壁･床の調整用ねじで設置位置に合わせる。





チェック

必ず水準器や下げ振りなどを使用し、建築壁に頼らず正しく位置出しする

❹ ❶で仮固定したねじを本固定する

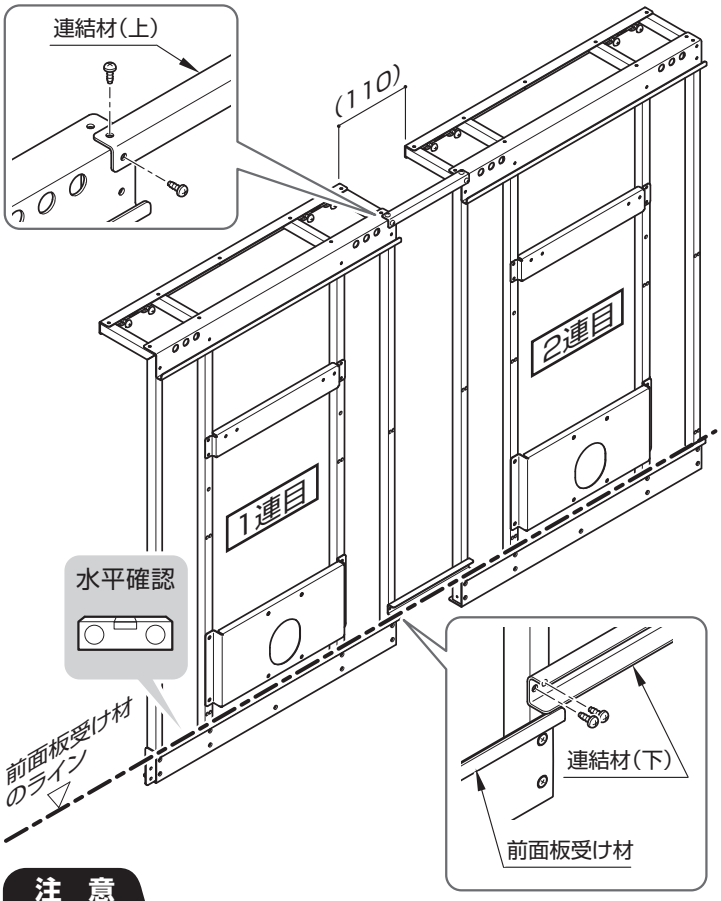
2～3連の場合

❺ 次にくるフレームを仮置きし、位置調整をしながら連結材（上）（下）でつなぐ

❻ ❶～❹の手順と同様に2連目、3連目と順番にフレームを設置する

必ず使用

「連結部材セット」に同梱
バインドタッピンねじ
φ4×12（4本）



注　意

- **フレーム下側の前面板受け材のラインを水平にそろえる**
- **フレームの水平・垂直および連結するフレームどうしの前出・高さをそろえる**

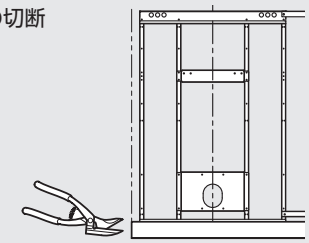
前面板位置が不ぞろいになる原因となります。

MEMO

MEMO

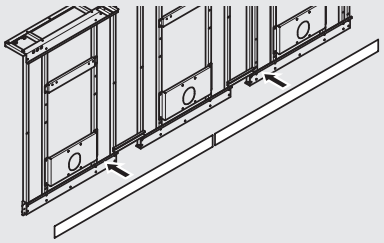
STEP2.幅木

1 **幅木**の切断



▶P.15

2 **幅木**の取り付け



▶P.15

1 幅木の切断

❶ 間口に合わせて幅木を切断

側板ありの場合

側板が取り付いている側は、フレーム端までの寸法にて切断してください。（右下図参照）

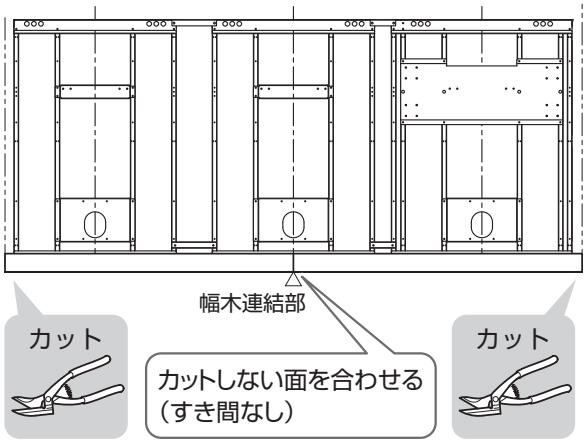
1連用・2連用

取り付ける幅木は1枚です。壁仕上げ面に合わせて片側を切断します。

3連用

2枚の幅木を連接して取り付けます。幅木の連結部は小便器の器具心です。下記を基準としてください。

【3連用（幅木2枚連結）】
※寸法が同じものを2枚使用します。
　壁側を切断し、切断しない側を連結部で突きつけます。

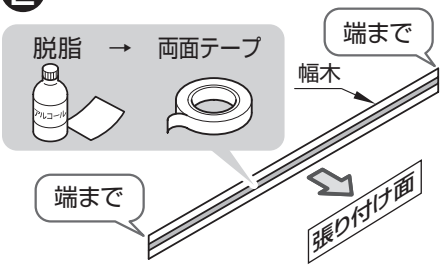


2 幅木の取り付け

❶ 養生フィルムをはがす

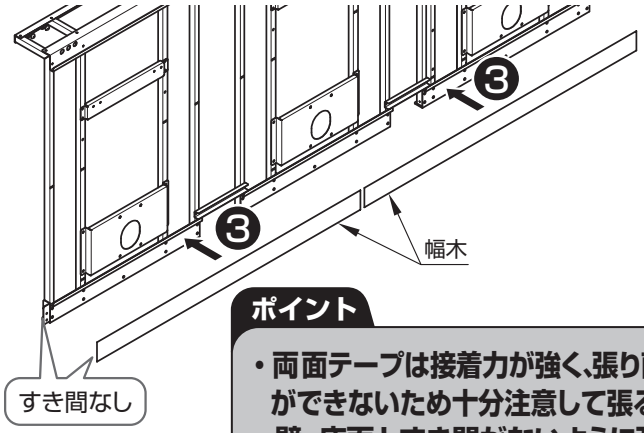
【裏面】

❷



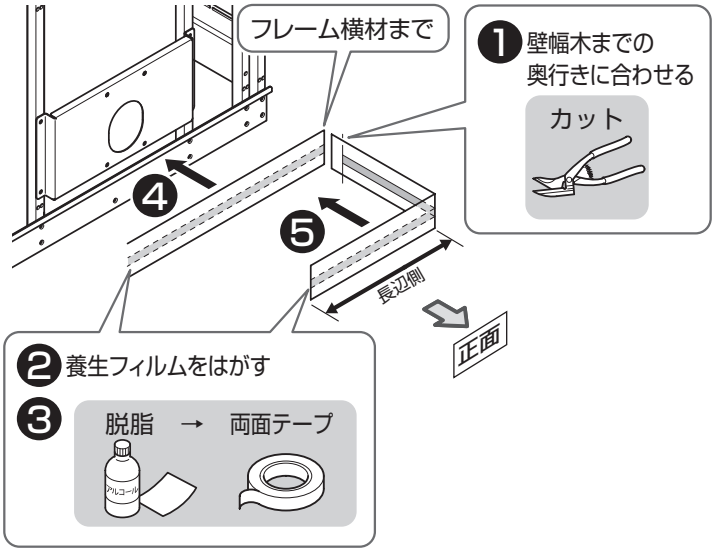
チェック
幅木裏面のほこりや油分を取り除く

ポイント
表裏を間違えない



ポイント
- **両面テープは接着力が強く、張り直しができないため十分注意して張る**
- **壁・床面とすき間がないように張る**

側板ありの場合

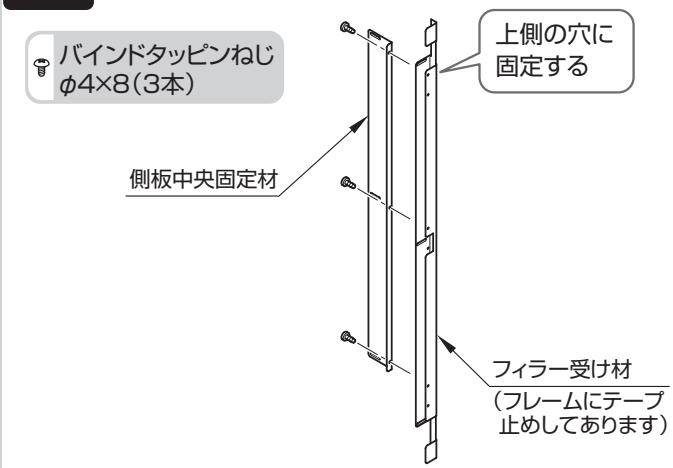


STEP3.側板(側板がある場合)【側板がない場合】

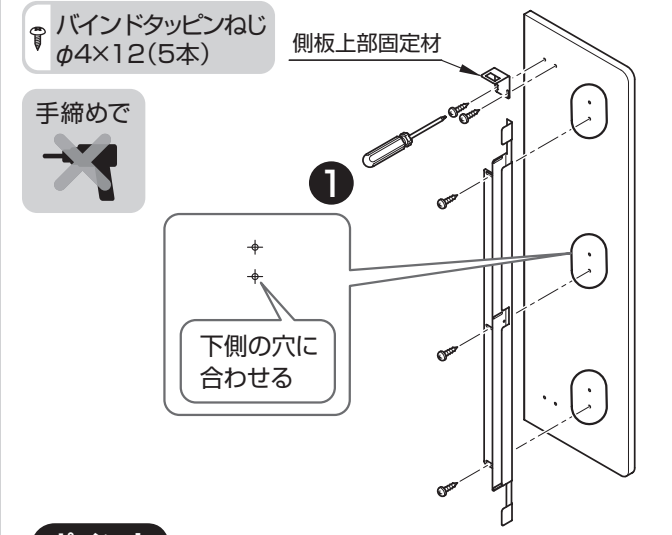
P.17「STEP4.フィラー受け材・フィラー」を作業してください。

※本施工説明書では、側板が向かって右側に取り付く場合を記載します。
側板が向かって左側に取り付く場合は左右反転になります。

1 フィラー受け材・側板中央固定材の取り付け



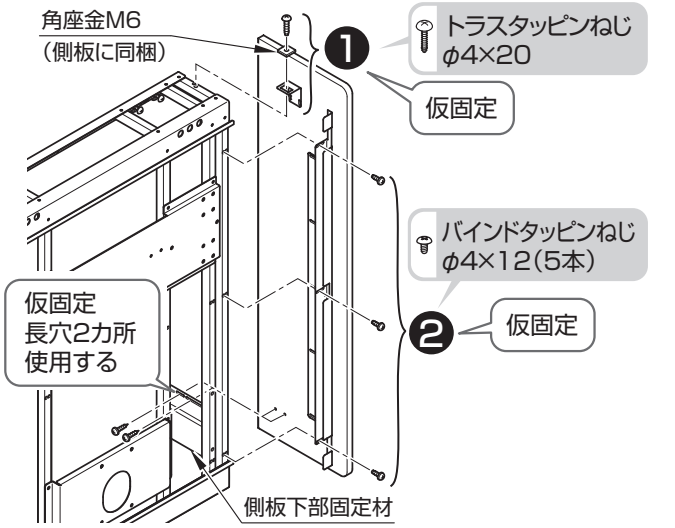
2 固定材の仮固定



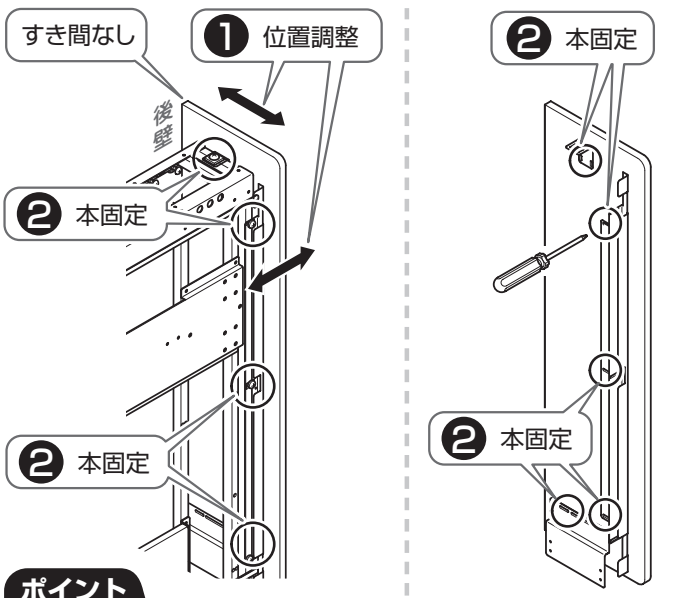
ポイント

電動ドライバーは使用せず、手締めで作業する
締め込み過ぎにより空転を起こすおそれがあります。

3 側板の仮固定



4 側板の本固定



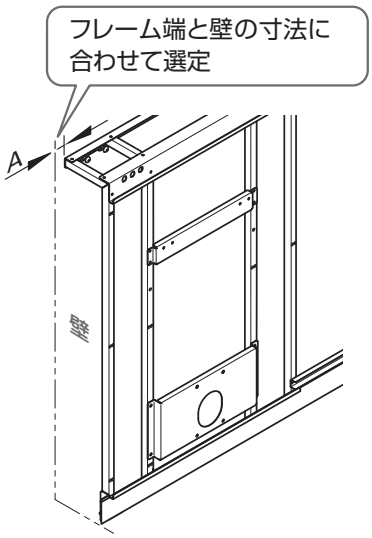
ポイント

電動ドライバーは使用せず、手締めで作業する
締め込み過ぎにより空転を起こすおそれがあります。

STEP4.フィラー受け材・フィラー

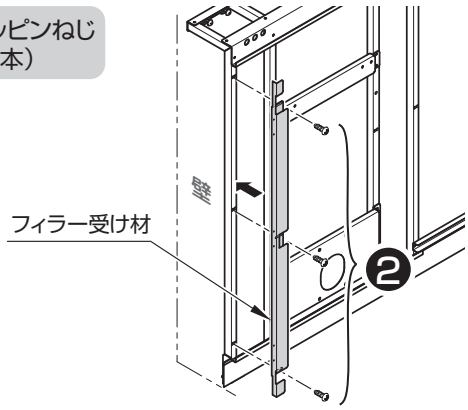
1 フィラー受け材・フィラーの取り付け

❶ フィラーを選定（2種類）する



【A寸法が40mm未満】
40mmフィラーを使用

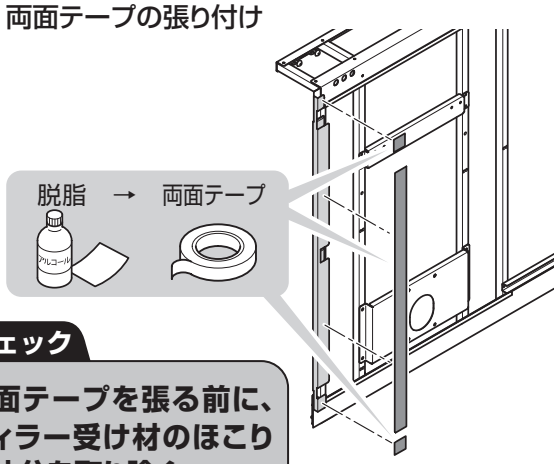
【A寸法が40mm以上】
65mmフィラー使用



ポイント

フィラー受け材は、なるべく壁に寄せて取り付ける

❸ 両面テープの張り付け



チェック

両面テープを張る前に、フィラー受け材のほこりや油分を取り除く

❹ フィラーを張り付ける

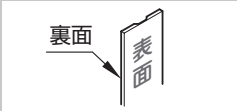
フィラーとフィラー受け材の上端位置を合わせる。

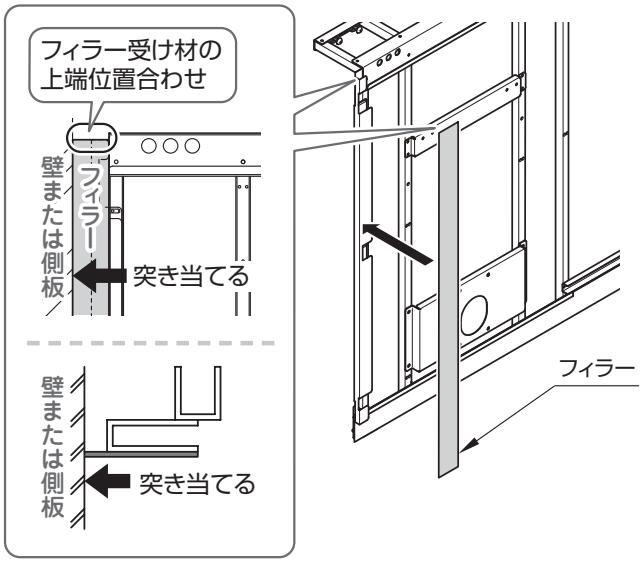
チェック

- **取り付け前に養生フィルムをはがす**
- **フィラーの裏面のほこりを取り除く**

ポイント

- **両面テープは接着力が強く、張り直しができないため、十分注意して張る**
- **壁面または側板とすき間がないよう、表裏を間違えないようにフィラーを張り付ける**





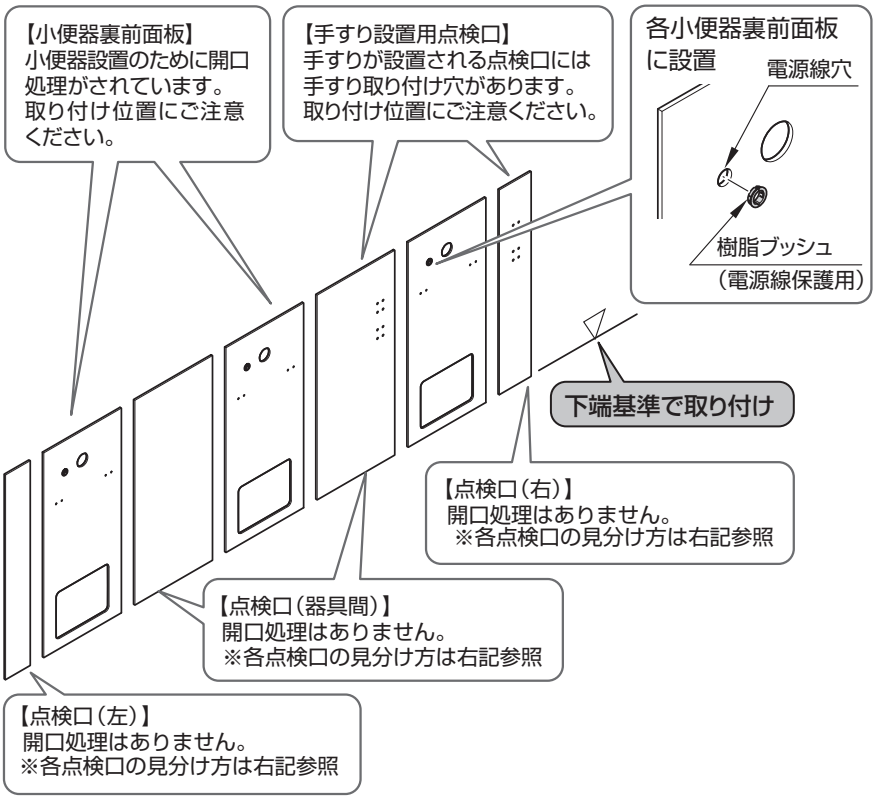
MEMO

STEP5.前面板

1 前面板の取り付け

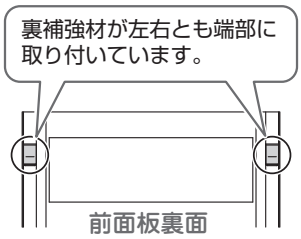
前面板の種類

小便器裏前面板
点検口(左・右・器具間および手すりの有無で異なります。)



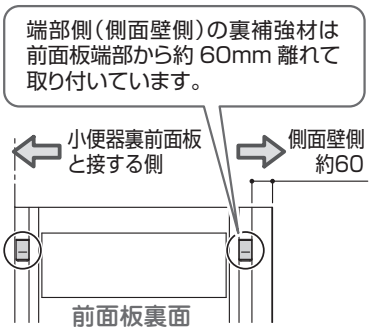
点検口(左・右・器具間)の見分け方

【点検口(器具間)】

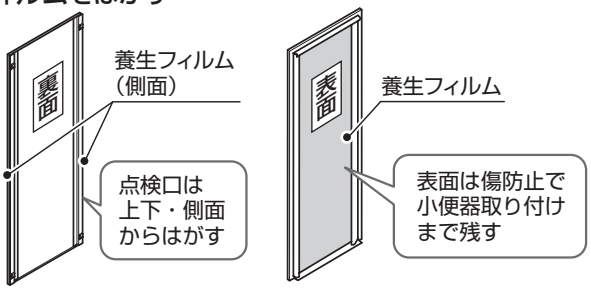


【点検口(左・右)】

※下図は点検口(左)を表します。
点検口(右)は左右反転となります。



❶ 養生フィルムをはがす

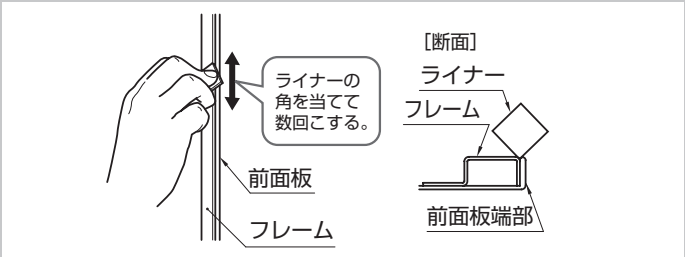


ポイント

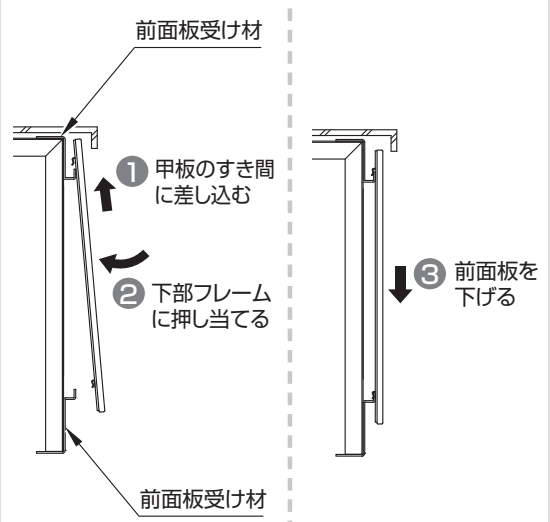
【側面の養生フィルムがきれいにはがせない場合】

前面板端部の内側とフレームの間に同梱のライナーの角を当てて、数回こする

前面板の仕上げ面に傷をつけないよう気を付けてください。



前面板の取り付け方



チェック

前面板受け材が上下ともフレームに引っかかっていることを確認すること

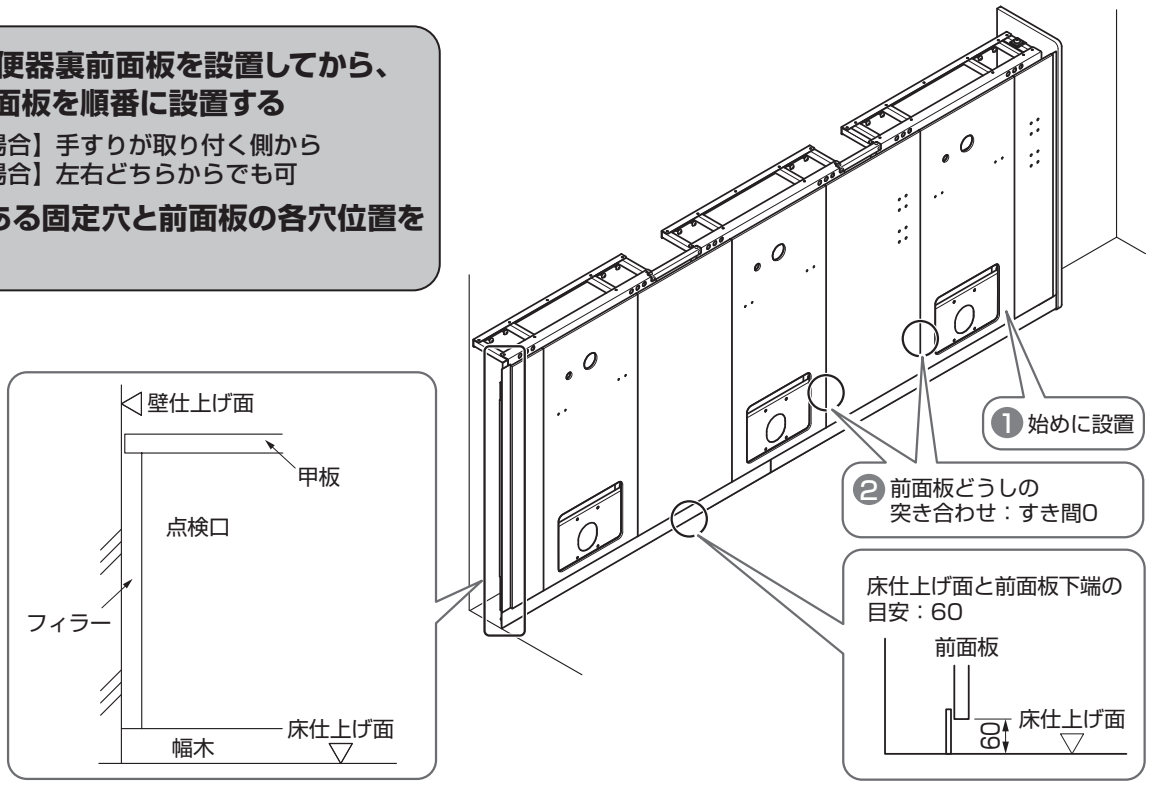
❷ 前面板を取り付ける

ポイント

- **一番端の小便器裏前面板を設置してから、隣り合う前面板を順番に設置する**

【手すりがある場合】手すりが取り付く側から
【手すりが無い場合】左右どちらからでも可

- **フレームにある固定穴と前面板の各穴位置を合わせる**

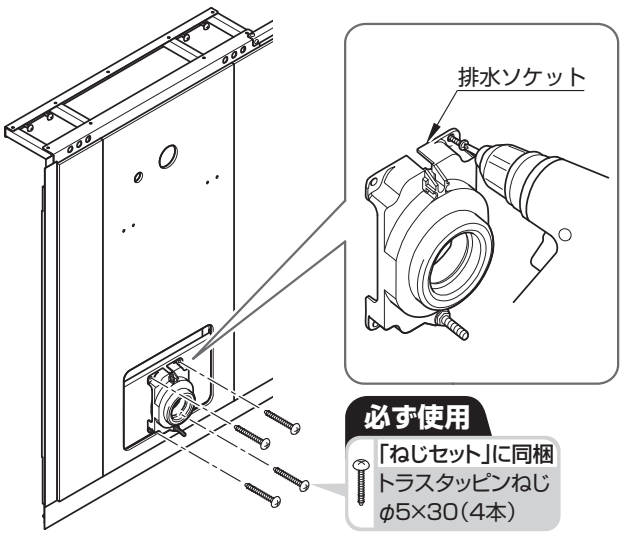


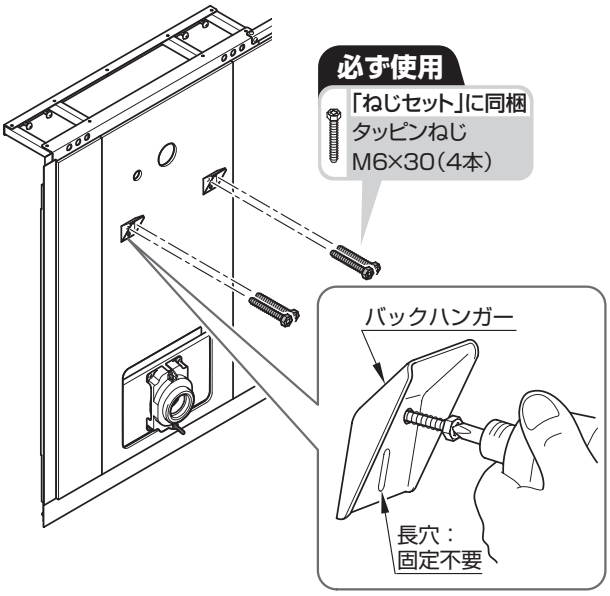
STEP6.小便器

※小便器の取り付けの際に、調整した前面板の位置をずらさないように注意ください。

▶小便器同梱の施工説明書参照

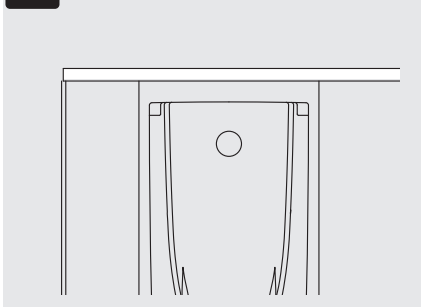
【小便器設置上の注意】
小便器に同梱のねじは木ねじですので、本商品の鉄製フレームには確実に固定ができません。
また、バックハンガーの固定は片側2カ所ずつとしてください。
フレームに下穴を用意していますので、位置調整用の長穴の仮固定は不要です。





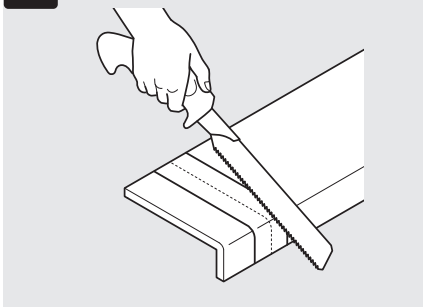
STEP7.甲板

1 甲板の確認



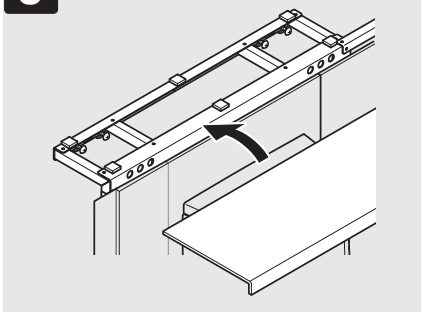
▶P.20

2 甲板の切断



▶P.20

3 甲板の取り付け

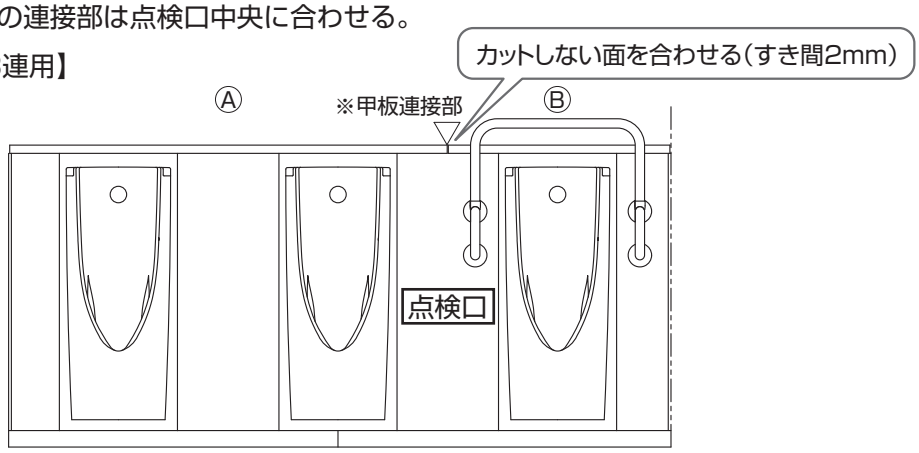


▶P.21

1 甲板の確認

1連用・2連用……取り付ける甲板は一つ。どちらか片側を間口に合わせて切断する。
3連用 ……2枚の甲板を連接して取り付ける。
甲板の連接部は点検口中央に合わせる。

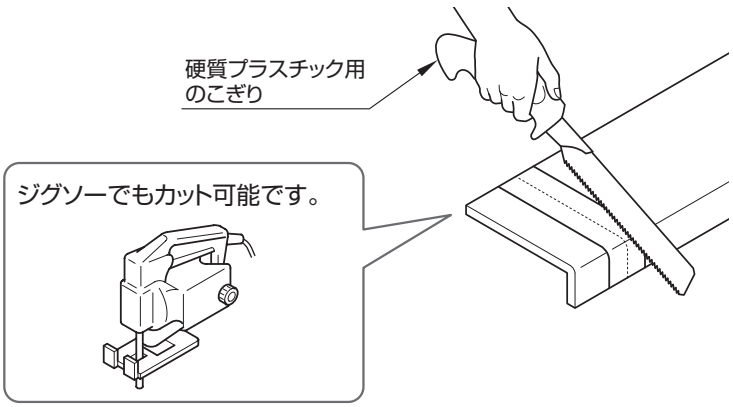
【3連用】



※甲板連接部は器具間となり手すりがある場合は手すり側で分割します。

2 甲板の切断

間口に合わせて甲板を切断する。
切断寸法は壁の倒れや開きなど、現場に応じて決める。
甲板と壁とのすき間は4mm、連接する甲板どうしの
すき間は2mmになるよう切断する。



チェック

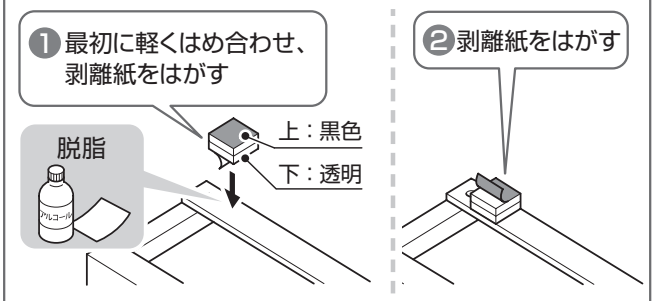
- **軽く押し切れるスピードで切断する**
- **養生テープを張る**
  チッピングや工具台座による傷を防止します。

ポイント

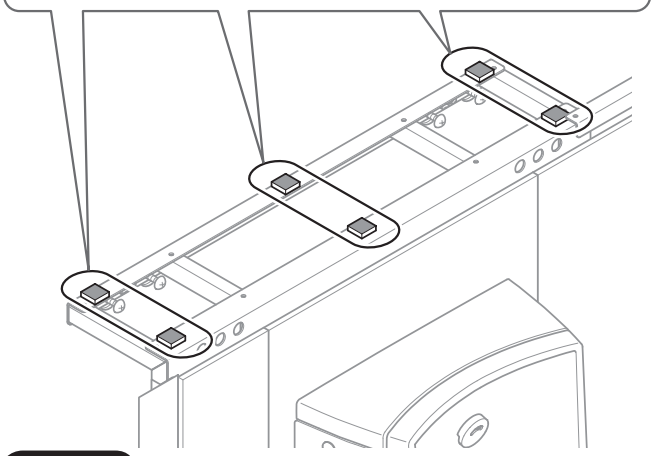
- **前垂れ部側から切り始める**
  前垂れ部を最後に残すと、甲板が欠けたり、けがをする場合があります。
- **切断木口は、必要に応じて金やすりやディスクグラインダーで削る**
  美しく仕上げることができます。
- **切断終了直前には切り落とす側の支持を行う**
  切り落とす最後の部分は欠けが生じやすいためです。

3 甲板の取り付け

❶ 面ファスナーの張り付け



※ねじ頭を避け、下図を参考に前後1カ所ずつ張り付ける



チェック

最初の面ファスナーどうしは強く押し込まず、軽くはめ合わせる

❷ 甲板の取り付け

チェック

甲板を連接する場合、連接する甲板どうしの段差がないことを確認する

❸ 面ファスナーの確認

面ファスナー（黒）が甲板の裏面に全て張り付いているか甲板を一度取り外し、確認してください。

【面ファスナーがフレーム側に残っている場合】

❶面ファスナー（黒）を外す

❷フレーム側の面ファスナー（透明）の寸法に合わせて、面ファスナー（黒）を甲板に張り直す

❹ 壁と甲板のシリコーンコーキング

※壁（側板）と甲板とのすき間をシリコーンコーキングするときれいに仕上がります。
シリコーンコーキングは別途手配となります。

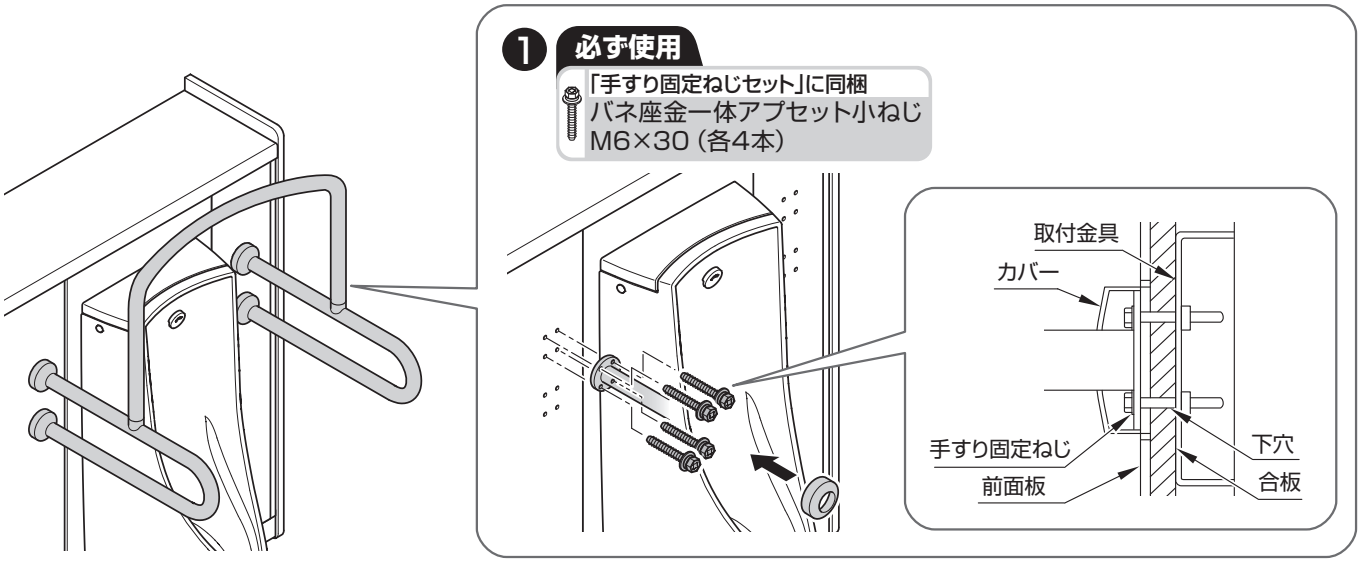
MEMO

STEP8.手すり(手すりがある場合)

1 手すりの取り付け

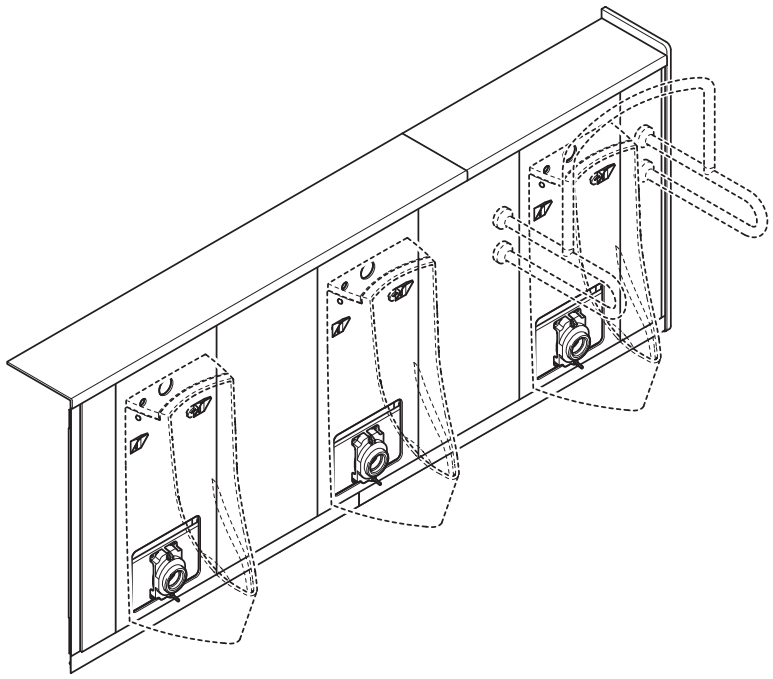
【手すり設置上の注意】

手すりに同梱のねじは木ねじですので、本商品の鉄製フレームには確実に固定ができません。
本商品に添付の手すり固定ねじを使用してください。



STEP9.確認・仕上げ

小便器に同梱の施工説明書の「試運転・点検」も行ってください。



●各部の設置状態を確認します。

①ライニング寸法の確認
- □間口寸法
- □器具ピッチ
- □奥行寸法
- □高さ寸法
- □ライニングの水平・垂直

②前面板の設置状態
- □連接する前面板の位置はそろっているか。
- □点検口の開閉はできるか。

③幅木の設置状態
- □幅木は確実に張り付いているか。
- □連接する幅木の間にすき間がないか。

④甲板の設置状態
- □連接する甲板の位置はそろっているか。
- □甲板は確実に取り付けているか。

⑤手すり設置状態
- □確実に固定されているか。
- □加重してきしみ・がたつきはないか。

⑥側板
- □確実に固定されているか。

●同梱している取扱説明書は必ずお客様にお渡しください。
手渡しできない場合は、工事完了後目立つ所に置いてください。

MEMO

工事店様へ

このたびは自動洗浄小便器（UFS900系）用点検口付ライニングを施工いただき、ありがとうございました。